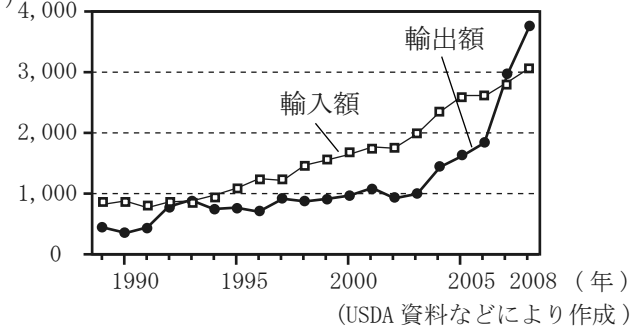


# 酪農地帯, トウモロコシ地帯, 小麦地帯が「適地適作」を超えた地域で何故, 必要とされたのか?

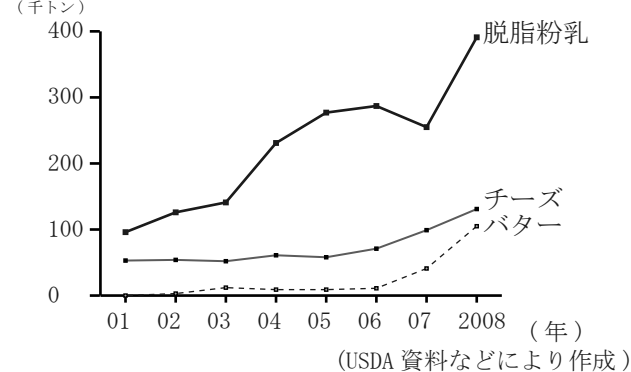
年 組 番

## 1 酪農地帯を考察する

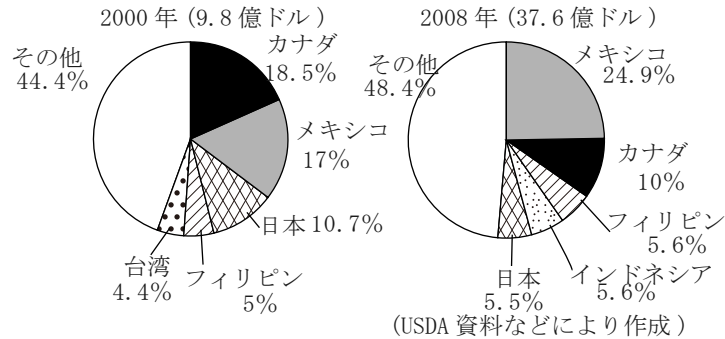
【1】アメリカ合衆国における乳製品の輸出入額の推移 (百万ドル)



【2】アメリカ合衆国における乳製品の品目別輸出量の推移 (千トン)



【3】アメリカ合衆国における乳製品の輸出相手国の推移



【4】南西部のメガファーム出現

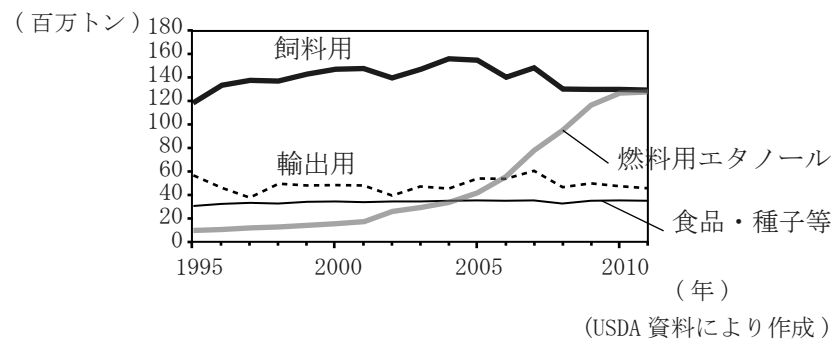
カリフォルニア州を中心とする太平洋岸・南部の新産地では, 農場当たりの平均乳牛飼養頭数が500頭以上, 搾乳牛頭数が数千頭というメガファーム (特大規模経営) が出現している。ここでは1日3回、24時間搾乳という工場化されたスタイルを実現している

(<http://www.akita-pu.ac.jp/stic/souran/study/> などにより作成)

考察結果

## 2 トウモロコシ地帯を考察する

【1】アメリカ合衆国におけるトウモロコシの用途別需要の推移 (百万トン)



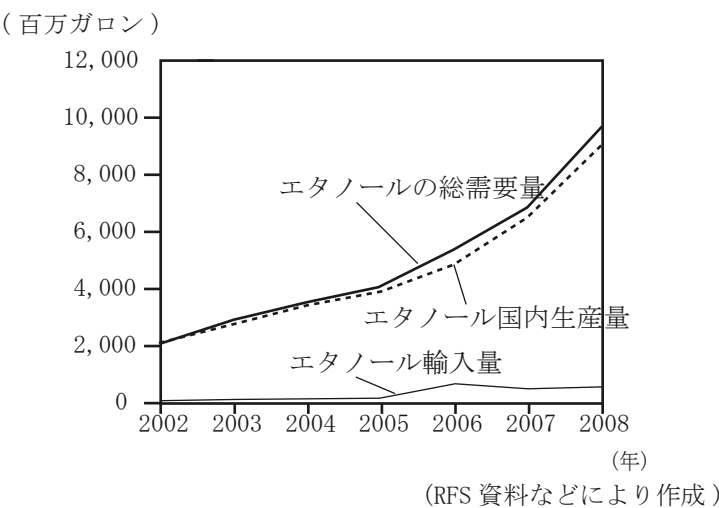
【2】アメリカ合衆国におけるバイオエタノール増産のきっかけ

環境保護局が, 2007年の新エネルギー法案で2022年までに年間360億ガロンのバイオ燃料利用を義務づけたことから, 一挙にエタノール生産に注目が集まった。

※ただし2014年12月現在, シェールオイル増産によって国内の石油輸入依存率が大幅に下がる「シェー革命」により, 依存率低減を目指したガソリン混合用のエタノール増産の必要性が薄れている。

(<http://www.jacom.or.jp/closeup/agri/2008/> により作成)

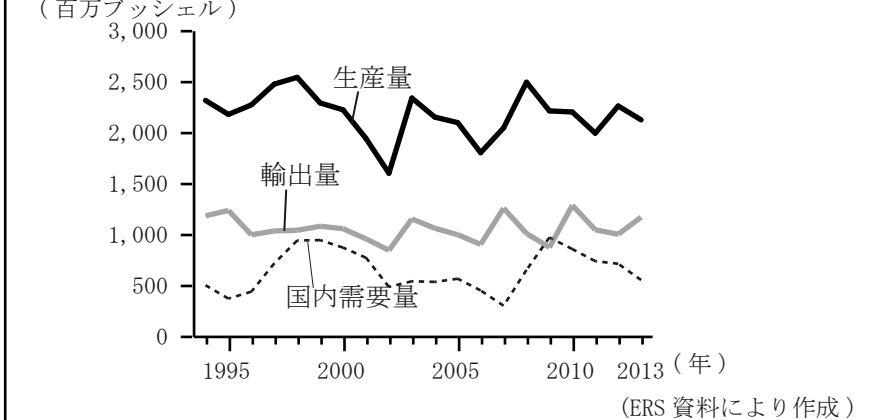
【3】アメリカ合衆国におけるバイオエタノールの需給状況 (百万ガロン)



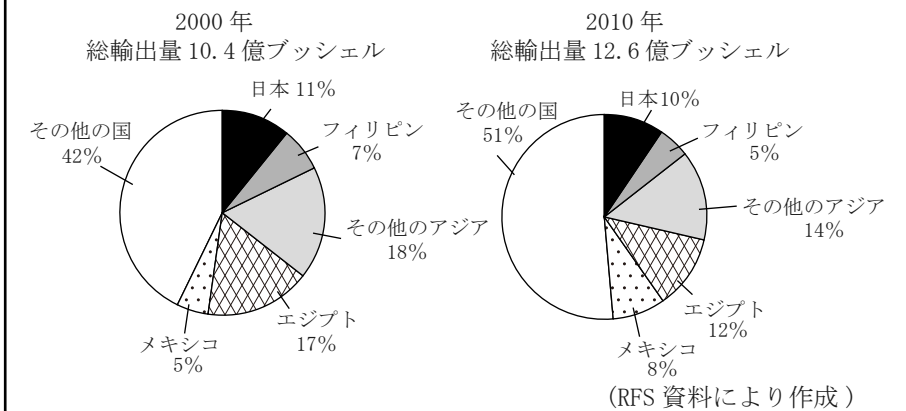
考察結果

## 3 小麦地帯を考察する

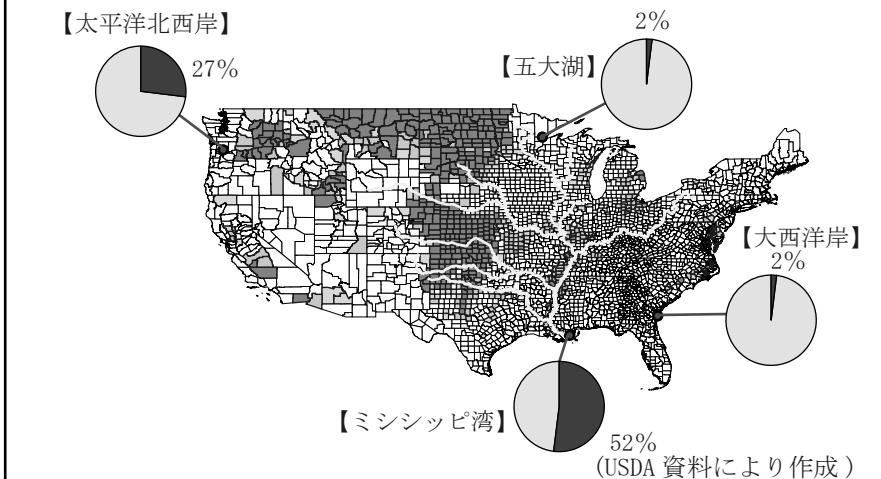
【1】アメリカ合衆国における小麦の需給量の推移 (百万ブッシェル)



【2】アメリカ合衆国における小麦の輸出相手国の推移



【3】各地の主要輸出港における「小麦」が輸出に占める割合 (2007年推定値)



考察結果